



シーラカンスは、どうして生き残ることができたの

シーラカンスやハイギョは、両生類にいちばん近い

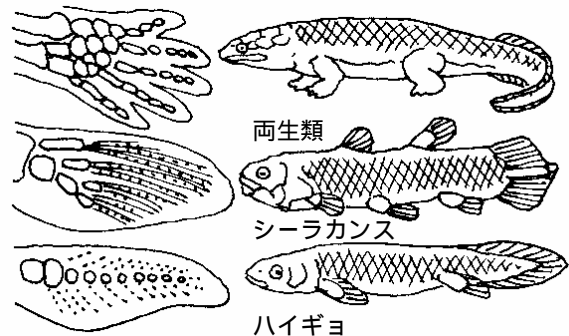
4億5000万年前ごろ、最初に背骨をもったヨロイウオが現れ、やがて、少し進化が進んだトゲザメが生まれました。トゲザメから、今いるサメや、イワシなどの仲間の先祖、肺をもつハイギョ、ハイギョに似たシーラカンスの仲間が、分かれて現れてきました。

このころの地球は、浅い海が広がり、陸地にもぬまがあちこちにありました。ぬまなどの水がかわいて干上がってしまうことが多かったため、肺で呼吸できるハイギョは、生きるのに便利だったのです。ハイギョとシーラカンスの仲間の胸びれの骨や体のつくりは、次に現れてきた、より高度な体のつくりをもつ、両生類（今いるイモリやカエルの仲間）に近いことがわかっています。

シーラカンスの仲間は、絶めつした

シーラカンスの仲間は、ぬまや海で栄えたけれど、6500万年前に絶めつしたことが、化石の記録から想像されています。ところが、海でくらすようになったシーラカンスの1種類だけが、今も深い海で生き残っているのです。

地球の歴史を調べると、マンモスなどが絶めつした氷河期のように、たくさんの生物が一度に絶めつした時期が3回ぐらいあります。海に出たシーラカンスは、温度や気候の変化を受けることが少ない深海にすんでいたため、生きのびられたのです。（監修・安部 義孝）



胸びれのちがい

